第３回小布施町総合計画審議会　会議録

日　時：　令和６年 11 月 26 日（火）午後１時 30 分～午後５時 10 分
場　所：　公民館３階講堂
出席者：
＜委員＞

区分	役職等		氏　名	備考	出欠
町議会議員	小布施町議会	総務産業常任委員会委員長	中村　雅代		
	小布施町議会	社会文教常任委員会委員長	関　　良幸		
関係する団体又は機関の代表者	小布施まちづくり委員会	副会長	高野　　薫	副会長	
	小布施町保健福祉委員会	会長	竹村　千代美		
	小布施町商工会	会長	須山　秀男		
	小布施町文化観光協会	会長	大窪　経之		
	小布施町消防団	団長	清水　和夫		欠席
	小布施町農業委員会	会長	堀　道広		
	小布施町民生児童委員協議会	会長	土屋　元博		
	小布施町シニアクラブ連合会	会長	涌井　良一		
	特定医療法人新生病院	常務理事	荒木　庸輔		
	小布施学園コミュニティ･スクール運営委員会	会長	原　　英之		欠席
	小布施町文化協会	会長	関　　悦子		

	小布施町スポーツ協会	会長	久保田　隆生		
	小布施町人権のまちづくり委員会連合会	会長	浅岡　茂		
	小布施町自治会連合会	会長	大島　孝司	会長	
	小布施町文化財保護審議会	会長	浅岡　修一		
学識経験者	長野県立大学 グローバルマネジメント学部	講師	三浦　正士		
その他町長が必要と認める者	公募委員		塚田　　博		
	公募委員		市川　博之		

＜総合計画審議会　幹事＞

氏　名	課　名	職　名
田中　洋友		副町長
山﨑　茂		教育長
須山　和幸	総務課	課長
原　　茂	健康福祉課	課長
宮川　伸幸	住民税務課	課長
宮﨑　貴司	産業振興課	課長
芋川　享正	建設水道課	課長
益満　崇博	子ども課	課長
藤沢　憲一	生涯学習課	課長
鈴木　利一	議会事務局	事務局長

＜総合計画審議会事務局＞

氏　名	課・係名	職　名
田中　洋友	企画財政課	(兼)課長
佐藤　孝幸	企画財政課	財政係長
岡田　貴大	企画財政課	企画交流係長
市川　園子	企画財政課	企画交流係主任

１．開　会

（事務局（田中副町長兼企画財政課長））

それでは、定刻になりました。只今より第３回小布施町総合計画審議会を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日進行を務めさせていただきます、副町長兼企画財政課長の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは定足数についてご報告申し上げます。本日は清水委員から欠席のご連絡をいただいております。また、原委員におかれましては若干遅れてくるというようなご連絡をいただいております。関（良幸）委員も欠席の連絡は受けていないということで、本日は 20 名中 19 名出席ということになっておりますので、定足数に達しましたことをご報告いたします。

また本会議につきましては、会議録を作成し、後日資料とともに町のホームページ等で公開いたします。今回にあたりましては、会議録の原案を作成後、委員の皆様には事前に内容を確認させていただきたいと思いますので、あらかじめご承知いただきますようお願いします。

それでは次第に沿いまして会議のほう進めさせていただきます。会長の大島様より開会にあたりましてごあいさつをお願いいたします。

（大島会長）

皆様こんにちは。大変お忙しい中、また大変寒い中、この総合計画審議会にご出席いただきましてありがとうございます。今日は３回目の総合計画審議会になります。これまで町民アンケート、３回にわたるワークショップ、こちらは皆様にもご参加いただいております。また、２回の専門ワークショップと、２回この総合計画審議会を行っているわけですが、それらを基にして事務局のほうで総合計画の素案というものを策定いただきました。事前に皆様のほうにはお配りしてありますので、目を通していただいていることと思いますが、今日はそれを基にたたき台として、皆様にご意見・ご提案等により修正したり、またそれをパブリックコメントを実施いたしまして、次回３回目の審議会で原案というものを策定したいと思っておりますので、今日は慎重審議よろしくお願いいたします。

（事務局（田中））

ありがとうございました。それではさっそく会議事項に移りたいと思います。小布施町総合計画審議会規則第６条第２項では、会長が会議の議長を務めることとされておりますので、大島会長に議長として議事を進めていただきたいと思います。

なお、事務局からの説明、質疑応答という形で入っていくわけですが、事前にお願いをさせていただきますが、発言される場合は冒頭でお名前をおっしゃってから質問・ご意見等に移っていただくようお願いいたします。本日ＩＣレコーダー等で録音させていただきますので、後日どなたがどういったご発言をしたということをしっかりと整理したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは大島会長様よろしくお願いいたします。

（大島会長）

それでは議事の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。着座にて失礼しま

す。また今日の予定ですが、次第では１時半から午後３時という時間になっておりますが、内容が多いので、３時には終わらないかと思います。遅くとも５時６時には終えたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

２．会議事項

（１）策定スケジュールについて　資料１

（大島会長）

それではさっそく会議事項の（１）策定スケジュールについて事務局から説明をお願いします。

（事務局（市川））

それでは、私のほうからご説明させていただきます。企画交流係の市川です。着座にて失礼いたします。

―説明―

（大島会長）

ありがとうございました。それではただいまの件につきまして、皆様から、ご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。それでは先に進めさせていただきます。（２）第３回町民ワークショップにおける意見について、資料２について事務局より説明をお願いいたします。

（２）第３回町民ワークショップにおける意見について　資料２

（事務局（市川））

それでは、右上に資料２と書かれたホチキス留めの資料をご覧ください。こちらは 10 月 26 日に行った町民ワークショップの要旨をまとめております。

―説明―

（大島会長）

ただいま資料２・資料３について説明が終わりました。皆様からご意見・ご提案・ご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

（浅岡（茂）委員）

将来像のところで、議事録の取りまとめのところにもあるのですが、「つながりの力で未来を創る」というところで「つながり」という言葉があるのですが、これは何とつながるのかということが明確でないと思います。ここを明記しないと、小布施町は交流が得意なので、「つながり」というよりは、「交流」としても意味が通るように感じました。

（大島会長）

ありがとうございます。ただいまのご意見につきまして皆様から何かご意見ありますか。それでは事務局から何かありますか。

（事務局（田中））

第３回ワークショップのときに確かに「つながり」はわかりづらいというご意見をいただきました。確かにわかりづらいかもしれないのですが、逆につながりとは何だろう、ということを皆様に考えてもらうというということも一つの効果があると考えています。また、後ほど資料５の中でご説明があると思いますが、将来像の 34 ページで、こちらでどういった繋がりがあるかというところで「つながりの力で未来を創る」にどういった思いがあるかということで、「つながり」をキーワードとして、掲載させていただきました。つながって交流するという流れがあり、フォーカスしたような形で考えてみました。どうしてもわかりづらいということであれば、ご意見として検討させていきたいと思います。「つながり」としたのは、そういう思いがあってのことでございます。

（大島会長）

「地域のつながり、人と人とのつながり」を大切にするということですね。

（浅岡（茂）委員）

わかりました。また、現行の第六次総合計画を見ると、「交流」という言葉が非常に出てくるのですね。今回の計画には、あまり「交流」という文字が出てこないというのがあって、第六次計画の中では、交流することによって移住人口や定住人口を増やすということが書いてあって、あまりそれとかけ離れてしまっても計画だけが一人歩きするような感じがするので、この部分にこだわるのではありませんが、「交流」ということはやはり小布施の一つの売りであるので、これを入れることはよいかと思います。以上です。

（大島会長）

ありがとうございます。ただいまのご意見については、皆様から何かご意見ありますか。

（三浦委員）

今の話の中で、説明にもあったのですが、「つながり」とは何を表しているのかわかりづらいというのは確かにそうなのだろうなと思います。一方で、この案を見ていると、色々なところで「つながり」と捉えることができることがちりばめられていると思っています。今例として「地域のつながり、人と人とのつながり」とおっしゃったのですが、それ以外にも、先ほどの重点プロジェクトの話でも、部署と部署をつなぐとか、協働の話でいうと、行政と住民、企業も含めたつながりができると思うので、私は将来像として「つながり」があり、大きなつながりの力で未来を創っていこうということであれば、将来像としてはいいのではないかと思って聞いていました。

ただ、わかりづらさは、基本理念にどう関わってくるのかということや、行政経営の協働の

部分とどう関わってくるのかというところだと思います。なので、基本理念を中心に、「こういうつながりの力でこういう町を作っていく」ということがわかるように、「つながり」という言葉が全体に入るように書きぶりを工夫していけばよりわかりやすくなるかなと思います。

もう一つ「交流」という話もございましたが、私も同意見で「交流」とつながりの一つとしてしっかりと打ち出していくことは必要だと思いますので、「交流」も基本理念や政策横断プロジェクトのようなところで含まれたものを打ち出していくことも大事だと思いました。

（大島会長）

はい、どうぞ。

（浅岡（修）委員）

地域とのつながりもあるのですが、小布施の今までの歴史からしても、過去から未来へつなげていくという意味でも言葉としては残していくのがよいと思います。以上です。

（大島会長）

ありがとうございます。次どうぞ。

（関（良）委員）

私も浅岡修一委員の意見に賛成です。つながりというのは、地域のつながり、人と人とのつながりということで非常によいものだと思います。浅岡委員がおっしゃったように、歴史があるということも含めて、わかりやすいと思います。

それで、今日は言葉の一つ一つをチェックしていくのですか。何時間かかるかわからないですね。

（大島会長）

ありがとうございます。この「交流」という言葉について、検討材料として聞いておいていただければと思います。

（事務局（田中））

今のご意見をしっかり受け止めまして、「交流」という言葉は大切にしてきましたので、検討したいと思います。

（３）素案について　資料４

（大島会長）

ありがとうございます。他にご意見ありますか。他にないようですので、また最後振り返って意見いただければと思います。

次に進めさせていただき、資料４について事務局から説明をお願いします。

（事務局（市川））
それでは、Ａ４横１枚の資料４をご覧ください。
―説明―

（大島会長）
それでは、資料４につきまして、皆様からご意見・ご質問ありますか。

（塚田委員）
総合計画についてですが、非常に分野別に絞られているという印象を持っています。その中で、できるだけ数値化できるものについては、例えば５年後に、具体的には空き家の問題とか、特に 60 歳以上の人口について、また農業分野についても、現在の遊休農地・耕作放棄地は全体の農地の何パーセントあり、５年後は何パーセントにしていくというように、数値化したほうが皆様わかるのではないかと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。ただいまの数値化ということについては、資料５にある素案の中で第１章～３章と載っておりますので、資料５のほうで議論させていただいてよろしいですか。

（塚田委員）
はい。

（大島会長）
ありがとうございます。他に何かありますか。どうぞ。

（浅岡（茂）委員）
議事録取りまとめのところで、「災害のリスクがある中で、居心地のよさと安全性をどのように確保するかが課題。“居心地よく”の前に“安心・安全で”を入れたほうがよい」というご意見があるのですが、資料を読む中では、第１章第３節の「町を取り巻く状況」の中に、「安心・安全なまちづくり」ということが書かれています。これにより、基本理念「居心地よく住み続けたくなるまち」の前に「安心・安全で」を入れてもおかしくないのではないかと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。ただいまのご意見につきまして、他の委員の皆様からご意見はありますか。よろしいですか。それでは、これを検討材料としてもらうということでよろしいですか。何か事務局のほうからあれば。

（事務局（田中））
おっしゃる通りかと思います。資料５の 34 ページに基本理念１に「居心地よく住み続けたく

なるまち」の意図するところを以下四行ほどで述べさせていただいております。災害・病気・事件・事故といった心配事から解放される環境かと思います。「安全・安心」が担保された結果、居心地よく住み続けられるということですので、全体の文字数のバランス、パッと目に飛び込んでくるような効果も加味しまして、こういった形に整えさせていただきました。ご意見をいただきましたので、その部分は検討させていただきたいと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。他にご意見ありますか。どうぞ。

（三浦委員）
この段階で質問すべきかどうかわからないのですが、全体像ということなので忘れないようにお話ししたいのですが、政策横断プロジェクトの話が出てきたのですが、中身については後ほどということですが、全体像で言うと、この場所でいいのですかというのが率直な疑問で、先ほどの説明の中で基本理念は各分野での取り組みであって、だから、横断プロジェクトということくらいであるという説明があって、ここだという気はするが、どうも一番最後に置くと取ってつけた感があるというか、趣旨がよくわからないというところがあって。前回申し上げたのが、特にこれに力を入れていきますというものを最初に出したほうが計画のメッセージが伝わるのではないかという趣旨でお話しさせていただいて、それは「重点プロジェクト」みたいに最初に掲げるということは、特に重要な、進めなければいけないプロジェクトなのだから、当然それに予算を割きますよという意味になると思うので重点プロジェクトということで。今回重点プロジェクトとして出すには、そこまでなかなか合意形成はできないということだと思うのです。それは理解したのですが、置き場所としては、基本理念があって、それを実現するためにどうするのですかというふうに、総合計画なので、総合的に進めていくのだという自治体の最上位計画が総合計画なのだから、分野横断的に、総合的に町内一体となって施策を進めていきますよという計画のわけですから、横断プロジェクトは、分野別計画より前に置いておかないと、意味合いがそういうニュアンスになってくるかなと。せっかくプロジェクトとして特出していくならば、もっと前に出してもいいのかなというのが率直な意見としてあります。その辺はどういうふうにお考えかということはお伺いしたいです。

（大島会長）
ありがとうございました。事務局のほうから何かありますか。

（事務局（田中）
ありがとうございます。当初「重点プロジェクト」という形で検討してまいりました。重点プロジェクトですと、繰り返しになりますが、手段的なものであったり、課題解決のためのものであったりとばらつき感があったため整理させていただくという話で今回の趣旨だったのですが、さらに町民ワークショップでご意見いただく中で、やはり重点プロジェクトは、子育て・教育・福祉・交流でしょうという意見がものすごく強かったのです。そもそも重点プロジェク

トなのか？という意見もありました。
　今回重点プロジェクトを「政策横断プロジェクト」としたのは、例えば１に「誰もが移動しやすいまちづくり」とありますが、これまでも高齢者の生活の足として色々な実証実験をやってきた中で、なかなか定着してこなかったということで、今後どうしていこうという見通しが全然立たなくて、そうは言っても、地域公共交通の維持というのは町民アンケートでも一番の課題に挙がっていますので、そこはしっかりチャレンジしていこうというところで、そういうことを考えますと、最重要として前に持ってくるのはどうなのか？という我々の思いもありまして、今回は重点というのは外しまして、あくまでも政策横断ということで、プロジェクト的に検討していこうという思いでこういった形でしたためました。

（三浦委員）
　ありがとうございます。承知いたしました。だからどちらかというと、５年後というかもっと先を見据えたときに、今から取り組まないとだめだよねということで、しかも分野をまたいだ課題だから、これから取り掛かっていくのだというニュアンスで理解してよろしいでしょうか。

（事務局（田中））
　その通りでございます。

（三浦委員）
　わかりました。プロジェクトの内容についてはまた後でということなので、後ほどお話しいたしますが、一つだけ申し上げておくと、「政策横断プロジェクト」という名前がどうなのかなというところがあって。今おっしゃっていただいた趣旨だと、場所としてここにあるということはなるほどなということでしたが、政策横断プロジェクトというと、複数の分野をまたいで総合的なプロジェクトというニュアンスがあって。例えば重点プロジェクトとして、まず考えていく、町民ワークショップで揉んで政策横断プロジェクトになりましたというのが経緯なのだと思いますが、公共交通でいうと公共交通の分野の話ではないのかというところがあるし、空き家対策とはまちづくりの話ではないのかとか。分野横断して総合的に全庁的に、というところが内容的に弱いかと思うので、中身についてはまた議論ですが、議論したうえで、どうしていくか検討すればいいかと思いました。

（大島会長）
　ありがとうございました。それぞれの分野について掘り下げて、そこから横断プロジェクトについて議論できればと思いますが。他にご意見ありますか。

（浅岡（茂）委員）
　資料２の中で、分野別計画ですが、現行の第六次計画にこだわるわけではありませんが、見出しの中で「健康・医療・福祉」と書いてありました。今回「医療」が抜けています。「学び・

文化芸術」には、「交流」が入っておりました。それと、「産業・移住」では、「産業振興・移住定住」とありました。第六次計画のときも見出しを議論されて考えたところだと思うのですが、現行と変えた意図は何かございますか。お聞きします。

（大島会長）
第六次総合計画と第七次総合計画の見出しを変えた意図について、事務局より説明をお願いします。

（事務局（市川））
ありがとうございます。まず「健康・医療・福祉」分野の「医療」を抜いた理由なのですが、後ほどご説明しようと思っていたところでしたのでありがたいなと思っていまして、町が医療について書けることとなると、分野別計画にもあるとおり「医療と介護の連携」ですとか、「保健事業と介護予防の一体的な実施」などになるのですけど、これは健康あるいは福祉の分野で書くことができまして、あと公的な医療保険である国民健康保険・後期高齢者医療保険は全国一律で行っていることですので、特筆すべき点がないということで、今回はこれまで医療の分野で書いていたところは健康あるいは福祉の分野に書くということで「健康・福祉」といたしました。
「産業振興・移住定住」ですが、産業振興の「振興」を外した理由は特にないというか語呂的な話なのですが、「定住」を抜いた理由としましては、前回の審議会でお話ししたかもしれないのですが、定住というのは分野に限った話ではなくて、複数の分野にまたがる複合的な効果と言いますか、医療とかいろいろなものを踏まえて住み続けたいと思うかどうかという話で、定住はより上位のものということで、基本理念２「居心地よく住み続けたくなるまち」というところに含めたというところです。
「学び・文化・交流」から「交流」を抜いた理由なのですが、こちらも「交流」はより上位の話だろうということで、先ほどの議論にもあったとおり、「つながり」と置き換えて将来像のほうに置いたというところになります。

（事務局（田中））
補足をよろしいでしょうか？ 今担当が言ったとおりですが、もしわかりづらさということがあれば、分野としてはこういうふうに示させていただいていますが、この分野が含むところは何か、例えば保健だったり医療だったり健康だったり、そういったことを盛り込むことも検討したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（大島会長）
ありがとうございます。

（浅岡（茂）委員）
個人的にはやはり福祉と医療はセットの部分があると思うので、書いておいて邪魔にならな

いのであれば、わざわざ消す必要はないと思いました。「交流」もやはり抜けていますので、つながりに含まれているということであっても、特に抜く必要・理由はないのではないかと思います。以上です。

（大島会長）
　ありがとうございます。では検討材料とさせていただくということでよろしくお願いします。

（塚田委員）
　総合計画の中で、第４章第２節政策横断プロジェクトがありますが、町に対して質問したいのですが、政策横断としてテーマが４つあります。町には課がいっぱいありますよね。それぞれの政策でどこの課が中心となってこのテーマについて取り組んでいくのか基本的なお考えを聞きたいと思います。よろしくお願いします。

（大島会長）
　ありがとうございます。政策横断ということなので、事務局のほうから。

（事務局（市川））
　ありがとうございます。まず「誰もが移動しやすいまちづくり」というのは、今企画財政課で地域公共交通を所管しておりますので、企画財政課がメインで進めさせていただいて、あとは健康福祉課と一緒にやっていこうかと考えているところです。「地域資源を活かしたまちづくり」のところは、空き家対策また財産とかも含まれますので、色々な課で検討しているのですが、基本的には建設水道課をメインとして進めさせていただいております。決まっているわけではないのでが、今のものです。「小布施ならではの町並み・緑豊かな景観を大切にしたまちづくり」は、花のまちづくりのところを課をまたいで議論しているところなのですが、最初花だったので産業振興課がメインとしていたのですが、今このようになっているので、どこがメインかというのは考えているところです。最後の「環境に負荷をかけないまちづくり」は環境グランドデザイン推進室が企画財政課内にありますのでそちらがメインになるかと思いますが、住民税務課もごみ等を所管しておりますので、そのあたりではないかと思います。以上です。

（大島会長）
　ありがとうございます。

（塚田委員）
　それぞれ４つのテーマで、どこの課が中心になってやるのか、また関係する課について推進体制を整理していただきたいです。

（大島会長）
　ありがとうございます。ご意見として検討していきたいと思います。他にございますか。

（大窪委員）
今までの流れがよくわからなくて申し訳ないのですが、三浦先生のおっしゃったとおり政策横断プロジェクトがここに入っているということに違和感があって、何かスローガンみたいなものが別にあると、わかりやすい。これに対して、皆様が言っていた「つながる」「交流」を一緒につけてあげると、収まりがいいかなと感じました。
あと、資料４全体像のポイント数が全然違うので、揃えていただくといいのかなと。重点的に見えるのは大きくて、小さいのもあるので、できれば揃えてほしいです。

（大島会長）
ありがとうございます。他に資料４についてご意見ありますか。なければ次に進みます。資料５の素案についてですが、大変ボリュームがあります。この素案を３つに区切ってやっていきたいと思います。まず基本構想、分野別計画の「出産・子育て・教育」「健康・福祉」「学び・文化」とここまでを説明してもらいたいと思います。ページ数は…。

（事務局（田中））
34 ページになります。

（大島会長）
34 ページからお願いします。先ほどの訂正で、基本構想の前までを１つと区切りたいと思います。33 ページまで

（事務局（田中））
33 ページまでは、データ的なことやアンケート結果なので、特に説明は予定していなかったのですが、もしあらかじめお読みいただいて、ご意見等があればお願いしたいと思います。

（大島会長）
これについては事前に資料をお配りいただいておりますので、説明はなしでも、皆様のほうからご意見・ご質問ありましたらよろしくお願いします。

（浅岡（茂）委員）
31 ページなのですが、財政指標の状況というところで、イの義務的経費は、グラフを見ると人件費等も上がっているので令和５年に向けて上がっているのは納得できます。ロの経常収支比率ですが、グラフを見ると令和５年では 88％と、Ｖ字に上がっている。説明を見ると、「経常収支比率が大きいほど、経常的な経費が多いことを表します。これが 100％を超えると、経常的な一般財源では経常的な経費を賄いきれないということになります。この値は 70～80％が望ましいとされています。これは経常的な一般財源の 20～30％を新たな町民ニーズへの対応など自由に使えることを意味します。」と書いてあるのですが、令和５年は 88％になっているので、

もう健全な状態を越していると思うのですが、これに対する対策とかが書いていないと、現状でもう88%超えているではないかというのが話として出てくると思うので、対策を何らかの形で書き加えていくのが手だと思います。

（大島会長）
　ありがとうございました。財政健全化に対する考え方というのは、毎年「ここに使いますことしの予算」の中でも記述・数値があります。

（事務局（田中））
　委員おっしゃったとおり、ここを読みますと、やはり健全化に向けてどうなのだという疑問はあるかと思いますので、いただいた意見については持ち帰りまして対応を検討したいと思います。

（大島会長）
　ありがとうございます。よろしいですか。他にございますか。

（三浦委員）
　私も経常収支比率が気になって丸をつけていたのですが、上がった理由は何かあるのですか。

（事務局（佐藤））
　令和３年度の決算について、経常収支比率が極端に下がっている理由ですが、コロナ禍の影響となっておりまして、国からの財源がかなり投入されています。それが経常収支を下げた要因になっておりまして、元に戻ったというように見ていただければと思います。

（三浦委員）
　わかりました。承知いたしました。ですが、経常収支比率が高いと、政策的経費に回せる予算が少なくなるということなので、非常に由々しき問題だと思います。総合計画でいうと重点事業とかに回せなくなってしまうので、ここはすごくポイントになると思います。先ほどご発言がありましたが、ではどうしていくかということ、この部分でも喫緊の課題になっていることは示して、そのためにこういうふうにしていくというところを書ければいいのではないかと思います。

（大島委員）
　ありがとうございました。先ほどの塚田委員のご意見をもう一度よろしいですか。

（塚田委員）
　28 ページの町税の変化ですが、私の理解だと 12 億円から 6 億円と、グラフを見ると半分になっていく。これを平行線にするための対策についてお伺いしたいと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。事務局よりお願いします。

（幹事（宮川））
今お話ありました町税の問題でございます。これはこのままの税率、人口が減っていけばこのようになりますよというのがグラフになります。しかし、これは小布施町だけの問題ではございません。全国各地で同様の事態になっていると思います。その中で、望ましいことではないのですが、増税であったり他の財源によって、今のラインを保っていければいいのかなと思うのですが、申し上げた通り町だけの問題ではございませんので、今の状況でいけばこうなるということでお示ししているということでご了解いただければと思います。

（塚田委員）
町税の中身で、住民税と法人税とあって、違うと思う。個人の住民税については伸びないのではないかと私は予想している。対策としてこういうことをやるというのは何かありますか。

（大島会長）
ありがとうございました。事務局よりお願いします。

（幹事（宮川））
今、個人住民税と法人税というお話がございました。人口が減っていけばこういうものは減っていくというのは当然のことでございます。対応というお話でございますが、今現在の税収がそのままいけばいいところでございますが、人口が減っていくというところが見込まれましたので、それに対応していくなかで、税収を維持していくことと、税金を滞納している方が大勢いらっしゃいますけれども、滞納を減らして、できるだけ町で使える税金を多く確保していくことが大事かなと思っておりますので、よろしくお願いします。

（大島会長）
ありがとうございました。よろしいですか。

（塚田委員）
はい。

（大島会長）
他に 33 ページまで、ご意見・ご質問ございますか。

（荒木委員）
今までの議論を繋げたお話になろうかと思うのですが、経常収支比率もさることながら、町

のその人的リソースも限られていると思うのです。こういう計画をやるとですね、大風呂敷を広げる形になりがちかなと思うので、先ほど大窪さんや皆様のほうからも指摘があったように、最重点施策というか、むしろテーマを絞るべきではないかなと個人的には思います。なので、これだけは、いずれにしてもおそらく優先順位が高いもの、直接の町の財政収支を改善するような施策が優先的に前に出てくると思いますし、それが徐々に改善される中でやれること、できることというのはどんどん広がってくると思うので、やはりその収支のバランスも決して無限に、皆様のお時間もそうですし財源も限りがあるわけですから、むしろ詰め込むだけ詰めたようにまだ見えてしまうので、もっと絞るべきではないかと思います。

（大島会長）
　ありがとうございました。これについては、次の基本構想からの段階でよろしいですか。とりあえず今は 33 ページまでのところでお願いいたします。

（市川委員）
　先ほど宮川さんの話にもあったように、財政状況の見通しというのはどうしても下がっていくことは否めない。私自身今会社で小布施町のスポーツコミュニティセンターの指定管理を受けていまして、本来あの施設自体も、年間 2,800 万円の赤字施設だったのです。それを今弊社がいることによって、要はプラスの 1,800 万ぐらいの税収を上げているのと同じ効果が生まれているのです。そこをこれから検討材料にしていくしかないと思っていまして、町の例えばおぶせミュージアムについて、年間何千万もかかっている赤字施設に対して、きちんとメスを入れていく。正直そこしか処方はないのです。非常に行政にとっては耳障りかもしれないけれど、きちんと実践していくことが今後の行動指針になっていくと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。以上です。

（大島会長）
　ありがとうございます。今いろんな施設がありますけれど、年間収支も大事だなというところで、今の意見につきまして事務局から何かありますか。

（事務局（田中））
　ありがとうございます。まさに公共施設をたくさん抱えている中で、やはり老朽化、修繕が必要な箇所が増えてまいります。そういった中で、そのためには、建物にかかる経費は今後増加していくということが見込まれますので、そこら辺はしっかり今後改善していくべきということでございまして、資料５の 70 ページで、重点ということで、公共施設マネジメントの推進という項目を並べさせていただいております。
　ここは、老朽化も含めまして今後施設の総量をどうするのかというようなところをしっかりと取り組んでいきたいというようなところで記載させていただいておりますが、改めまして皆様のご意見はしっかりと検討しまして取り入れていきたいと思っております。

（大島会長）
ありがとうございます。よろしいですか。他にございますか。

（三浦委員）
今のところで意見を言わせていただきますが、ここに書かれている数字は推計も含めてですがこうなっていますよというところだと思うのです。いろいろなご意見が今出ていますけれど、生産年齢人口が減るのだから、町税は減るのです。だから、経常収支比率が悪化するのですよね。だから政策に回せるお金が減っていくのです。その中で、減っていく中で、何に重点的に財政を投入してプロジェクトを進めていくのですかという重点を示す、あるいは、町税が減少することの対策として、税収を減らさないようにするには生産年齢を増やすしかないのですから、移住とかをどうするかという話になるし、あるいは産業をどう活用するかという話になると思います。それは、これからの分野別計画の中身で具体的に何をやるかを書かれていると思うので、総合計画が今後税収が減っていくと政策も選択と集中もしていかなければならない、そのために何をしていくかというのがこの計画なのだということを共有した上で、個々にこれから見ていって、具体的なご意見・ご提案を委員の皆様から聞くという形で進めていけばいいのかなと思います。

（大島会長）
ありがとうございました。他にございますか。それでは先へ進めさせていただきます。基本構想、分野別計画の「出産・子育て・教育」、「健康・福祉」、「学び・文化芸術」ということで 34 ページから 60 ページまでを説明をお願いします。

（事務局（市川））
それでは、私のほうからまたご説明させていただきます。

―説明―

（大窪委員）
私、五次、六次と参加させていただいておりまして、五次のときに１学年 100 人にしたらどうかということで申し上げて、そのままそうなったのですが、10 年後はそのときも目標値が 8,000 人だったか、ぜひその数字は書いていただきたいなと思います。以上です。

（大島会長）
ありがとうございます。今の基本構想また人口ビジョンの話で皆様からご意見ありますか。

（塚田委員）
人口ビジョンについて、例えば１～18 歳、19～65 歳、65 歳以上の３つに分けたときに５年後、10 年後はどうなっていくのかというのをシミュレーションできましたらお願いしたいと思います。

（大島会長）
先ほどの大窪さんのご意見と併せて、事務局のほうからお願いいたします。

（事務局（市川））
ありがとうございます。大窪委員さんのご意見としては、１学年平均 100 人というのは書いていただきたいというご意見でしょうか。

（大窪委員）
だいたい次男、三男の方が小学校入学時に戻ってこられる方が非常に多いという話を５年前にお話しさせていただいて、だいたい 100 人維持していくと学年 600 人、１学年平均 100 人を目標値にしたときに、どういう人たちが戻りやすい環境を作ってあげるのか、先ほどの空き家対策にも繋がってくるし、教育の場をとかいろいろ繋がってくるので、100 人は書いていただきたいなと。前回は書いてありましたよね。そこを検討していただきたいと思った次第です。

（事務局（市川））
ありがとうございます。いただいたご意見をもとに、また載せるかどうか検討したいと思います。ありがとうございます。
続いて塚田委員のご意見ですが、確かに年齢区分別の推計というのが 12 ページに社人研の推計は載せさせていただいているのですが、独自推計でどうなるかという推計は載せていなかったので、今後ぜひグラフを追加させていただこうかなと考えております。ありがとうございます。

（大島会長）
ありがとうございます。よろしいですね。他にございますか。

（堀委員）
たいしたことではないのですが、35 ページの人口ビジョンの一行目の後半に「令和 11 年の人口の将来展望と目標を示します」と書いてあるのですが、12 年の間違いかなと思いますが、これは間違いですか。

（事務局（市川））
ありがとうございます。これは間違いで、令和 12 年（2030 年）の間違いです、大変申し訳ありません。

（大島会長）
ありがとうございます。それではそこは令和 12 年（2030 年）と訂正をお願いします。他にございますか。

（三浦委員）
　基本理念の２つめに、「住民まちづくりに積極的に参加するまち」とあって、言葉の問題なのですが、説明には住民がまちづくりに「参画」ということなので、この基本理念が分野別目標に掛かってくるという説明なのですが、行政経営でいうと、特に参加ということではなくて、「協働」という言葉に変わっていて、重点施策のほうが「広報・広聴活動の充実」のようなもっと後退しているようなものが挙がっていて、この辺をどのように整理していくのかということがわからなくて、学術的に言えば「参加」と「参画」は基本的には少なくとも私は違いがないと理解しているし、使われ方が違うのですけれども、色々な言葉が混ざっているという状況なので、整理されたほうがいいかと思いますのでよろしくお願いします。

（大島会長）
　ありがとうございました。事務局から何かありますか。

（事務局（田中））
　ありがとうございます。統一感がなく、またもう少し整理したほうがよいかなと思っておりまして、そういった繋がりの中でしっかりと伝わるように精査していきたいと思います。ありがとうございました。

（大島会長）
　ありがとうございます。他にございますか。

（高野副会長）
　人口ビジョンのところで、合計特殊出生率 1.51 を維持とあるのですが、21 ページで小布施町は長野県平均よりも出生率が高い状態ということですが、これがどういう理由かということがわからなくて、子育て・教育環境が充実しているということなのでしょうか。小布施町をどうしていくかということは…。

（大島会長）
　ありがとうございます。これに対して事務局から何かありますか。

（事務局（市川））
　事務局で考えているところとしては、第１章で分析しているところで、第一子を出産してから小布施に越して来られて第二子以降を出産されるという方が多いので、そういうことではないかと思っているのですが。

（高野副会長）
　思うのが、人口が減っていくなかで、転入をどう考えていったらよいのかなと。

（土屋委員）
前回も、長野県の南の方で対策をして子どもが増えてきていると転入してきていると新聞で見ましたが、この辺の村の対策を参考にしてみるとか、確認はされたのでしょうか。特にやっていないようであれば大丈夫ですが、参考にしてもよいのではないかと思いまして。南箕輪村ですね。何か対策していて参考にしてもいいのではないかという感じがしますね。

（大島会長）
ありがとうございます。前回そのような話がありましたけれども、事務局からいかがですか。

（幹事（益満））
子ども課の益満です。数年前にまちづくり委員会で南箕輪村さんに視察に行って担当の方にお話を伺ってまいりました。職員の方がおっしゃるには、他の市町村と比較して子育てを重点的に取り組んでいる施策は特にないということで、なぜ増えているのかとおっしゃっていたくらいです。その中で、子育て世代の若いお母さん方のネットワークとかの口コミで、うちの村は子育てに手厚いというのが広がって増えているのかなとおっしゃっていました。
南箕輪村の担当の方々は、子育て支援施設、中核となる施設を建てようということで小布施町のエンゼルランドセンターに視察に来たり、向こうからこちらの工事を視察して新たな施設を建設したっていうことで、あと療育施設等もあるということで、お母さん方の口コミで増えてきたということは当時おっしゃっていました。以上です。

（大島会長）
ありがとうございます。よろしいですか。

（土屋委員）
参考にしていただければと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。他にありますか。

（浅岡（修）委員）
先ほど大窪委員から一学年 100 人がいいという話がありましたが、私は時々電車に乗るのですが、朝小布施駅から子どもさんが、電車通学で、通学の自由はもちろんあるのですが、小布施町で子どもを作って、小布施町はいいところだよということを子どものときから経験させるというのが将来的に小布施の人口を維持するということになると思います。

（市川委員）
私も小学校の PTA 会長をやっていた時に、先ほど大窪委員の言った話ではないですけれども、

驚くべきことが、須坂市や中野市出身の方が、小布施に家を建てたい。今は奥さんのほうに決定権がありまして、須坂や中野で大きい会社を経営しているのに、奥さんが小布施に住みたいから小布施に住むと。大体小学校に上がる段階で、これから先を考えたときにどこに住むかと考えるわけですね。ここで、小布施は賑やかでいいと。須坂や中野は昔ながらの地域の利権があるが、小布施にはまだそういうことが感じられないというようなことを言われたのです。そういうイメージはものすごく大事で、先ほど益満さんが言われたみたいに、小布施は賑やかでいいというお母さんたちのネットワークが小布施のイメージを作っているので、町の施策としては、過疎が進む地域は加速していくのですね。それに対して賑わい創出という部分があるだけ、小布施町には未来を感じるというビジョンがすごく大事になりますので、入れる場所があれば言葉で表現していただければと思います。

（大島会長）
事務局からいかがですか。

（事務局（田中））
ありがとうございます。例えば子育て世代の親の繋がりであるとかそういったものもつながりというものはやはりしっかり反映していきたいと思います。ありがとうございました。

（大島会長）
よろしいでしょうか。他になければ次に進むのですが、もう３時 10 分ともう会議が始まって 90 分ですので、ここで休憩をおとりしてよろしいでしょうか。それでは 10 分間の休憩をおとりします。今は３時 10 分ですので、３時 20 分ということでよろしくお願いします。

―休憩　午後３時 10 分～20 分―

（大島会長）
会議を再開します。先ほど終了時間を遅くとも５時か６時と冗談で言ったのですが、冗談っぽくなくなってきました。５時から副町長が議案説明、その後６時 30 分から北斎ホールで防災会議ということで一応５時で区切りたいと思います。終わらない場合は、日を改めてということで、できるだけ５時に終わるようにご協力をお願いいたします。
それでは、37 ページ土地利用の方向性から分野別計画１～３までを事務局より説明をお願いします。

（事務局（市川））
それでは、37 ページからご説明させていただきます。
―説明―

（大島会長）
ありがとうございます。それでは、37 ページから 54 ページまで皆様からご意見・ご提案・ご質問がありましたらお願いいたします。浅岡さんどうぞ。

（浅岡（茂）委員）
37 ページの土地利用の方向性は、第六次計画にはなかった新しい項目かと思いますが、この中で農地・農村地域について「（最も記述を厚くする部分か）」と書いてありますが、私はこれで納得していまして、27 自治会中住宅の戸数は、少ないところで 38、多いところで 400 以上と、非常にばらつきがあります。
市街化区域、市街化調整区域という区分があり、都市計画法に規定されているものなのですが、子供や孫が自分の農地に住宅を建てる場合は開発許可が不要という特例があります。地元の要望を聞くと、農地に空き地がなければ住宅を建てることができないということで、生まれて住み慣れたところへ住宅を建てたいのに建てられないという声が上がっております。
そうした中で、都市計画法の改正は非常にハードルが高いものだと思いますが、現在の都市計画法の成立から 50～60 年くらい経つと思うので、着手しなければ町周辺部には空き家等の物件が増えるばかりで人口は増えません。人口が多すぎる自治会では、これ以上いらないのではないか、自治会を二つに分けなければならないのではないかという意見が出ています。逆に町周辺部の地域からはこのままいくと自治会を維持することができない、二つの自治会を合併しないと維持できないという声も出ています。
ですから都市計画法の見直しに着手していただかないと、このようにばらつきが出てくると思いますので、検討いただければありがたいと思います。以上です。

（大島会長）
ありがとうございます。これについて、皆様からご意見はありますか。

（大窪委員）
浅岡さんのおっしゃることは私も多くの方からご意見をいただくので、ぜひ町のほうでご検討いただければと思います。
補足して、コミュニティや自治会の再編についてですが、東町が多い分上町を二つだけで回していたりとか、自治会の方からすれば難しいことだと思いますが、案の中に入れていただいて、町全体が潤う形で考えていただきたいと思います。以上です。

（大島会長）
ありがとうございます。他にご質問はありますか。

（関（悦）委員）
土地利用に関して、この５年間で相当な土地の利用の変化があったことを町報か何かで見せていただきましたが、その変化している姿を、紙面が許せば載せていただけるとありがたいと

思います。これからの５年間どのように変化していきたいのか、対象や比較するものを、入れられるのであれば入れていただきたいと思います。

（大島会長）
　ありがとうございます。事務局から先ほどいただいたご意見について何かありますか。

（事務局（田中））
　ありがとうございました。今いただいたいくつかのご意見につきましては持ち帰りまして、検討させていただきたいと思います。

（大島会長）
　他にございますか。はいどうぞ。

（塚田委員）
　基本的な問題ですが、37 ページの計画のうち、小布施町景観計画には何年から何年という計画期間が示されていませんが、これについて具体的な計画はあるのか、この基本的な方針が４つあると思うのですが、3411（都市計画法第 34 条第 11 号）についてはこのうちどの計画に関係してくるのか、説明をお願いします。

（大島会長）
　ありがとうございます。事務局からどうぞ。

（幹事（芋川））
　建設水道課長の芋川です。
　まず小布施町景観計画の関係ですが、今年度小布施町都市計画マスタープランと町景観計画の見直しを行っています。ということで、2025 年からになります。
　3411 の関係ですが、これにつきましては市街化調整区域の中で宅地造成できる場所として指定された区域のことでございます。この区域については景観計画の中でお示ししております。

（大島会長）
　よろしいですか。

（浅岡（修）委員）
　文化芸術の関係で、51 ページに博物館・美術館の来館者数が記載されており、53 ページには現状と課題として「髙井鴻山や葛飾北斎など先人達の足跡の紹介等、文化・芸術を町内外へ発信し、たくさんの方に小布施を訪れていただくようになりました」とあります。
　おぶせミュージアムや髙井鴻山記念館の来館者数については、町外の方が来られるという話は聞きますが、町内の人たちが来館されることは割と少ないと聞いています。現在 65 歳以上の

方は無料としていただいているように、いろんなメニューがあると思いますが、期間等を設けて、町民の方がたくさん来館できるような手立て、啓発活動を考えていただけるとありがたいです。

（大島会長）
　ありがとうございます。令和６年度の目標値というのもここに載っているわけですけれども、事務局から説明をお願いいたします。

（幹事（藤沢））
　生涯学習課長の藤沢でございます。ご意見ありがとうございました。
　今浅岡委員がおっしゃる通り、やはり美術館に関しまして、町内の住民の方がなかなか来館いただけないというのが今一番の課題となっています。
　今ご意見いただいた通り、65 歳以上の方は無料というような形にしておりますけれども、やはり町内の美術館でありますので、より多くの町内の皆様にご覧いただいて、見ていただくというのが一番大事なことだと考えております。また、小学校、中学校の児童生徒についても、学習の場としてこの美術館を有効に活用し、今年ワークショップも計画をして子供たちに参加していただきました。そのようなことを今後より多く計画する中で、町民の皆様に今後も啓発の活動を進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

（大島会長）
　ありがとうございました。他にありますか。どうぞ。

（堀委員）
　38 ページに達成目標の表がございますが、中身を見ると、達成目標でなく「手段」が書いてあるように思います。例えば「児童生徒対象アンケートの実施」と書いてありますが、アンケートを行えば達成したのだということではなくて、数値で評価をするようなものだと思いますので、評価指標をこれでよいのか確認したいと思います。
　併せて 39 ページに、重点として「多様な保育サービスの提供と待機児童ゼロの実現」と書いてありますので、待機児童ゼロが目標なのであれば、達成目標に「ゼロ」という数字が入れば、それを目標としているのだなということがわかりますので、書き方を考えたほうがいいと思いました。
　もう一点、49 ページの重点「支援体制の推進」の施策が書いてありますが、支援体制の推進は施策ではないと思うので、もっと具体的に何をやるのかを書いたほうがいいのではないかなと思います。

（大島会長）
　ありがとうございます。今３点ありましたけれども、「達成目標」「待機児童ゼロについて」「支援体制の推進」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局（田中））

ご意見ありがとうございます。達成目標につきましては、分野ごとその進捗度や達成度を図れるような指標ということで努めて参りました。やはり堀委員のおっしゃるとおり、手段的なことが並んでいるように思っています。その手段を実施することでその結果がどうなのかを記載すべきと提案いただいたと思いますので、アウトプットではなくアウトカム的な指標がないかどうか、どういったものが考えられるのかを改めて再検討したいと思います。

また、「支援体制の推進」については確かに具体性がないと思いますので、この記述について改めて修正、加筆をしたいと思います。ありがとうございます。

（三浦委員）

３つありまして、１つ目は先ほどの話に関わりますが「体制の推進」がどういうものなのかわからなくて、体制は整備したり構築したりするものだと思いますので、具体的なことを記載いただければと思います。

２つ目に「出産・子育て・教育」のところで気になったことで、42 ページの「地域で育む教育と支援のまち」ですが、「支援のまち」とは誰が誰を支援するのかということになり、日本語としてしっくりこない印象です。地域で子どもを見守って育んでいこうということだと思いますが、「支援」という言葉が日本語としてしっくりきませんでした。

３つ目が 43 ページ「一人ひとりの人権が尊重され、差別のないまち」ですが、「出産・子育て・教育」の分野というと、子どもに対しての政策区分というイメージですが、人権・差別といった話は、生涯学習の話で、子どもに限らず広く住民に関わる話だと思います。ですので、分野としては「学び・文化芸術」に記載したほうがいいのではと疑問に思いました。以上です。

（大島会長）

ありがとうございました。「支援体制の推進」については先ほどお話がありましたので、そのようなことでお願いいたします。

二点目の「地域で育む教育と支援のまち」「一人ひとりの人権が尊重され、差別のないまち」について、事務局から説明をお願いいたします。

（幹事（益満））

ありがとうございました。42 ページの「地域で育む教育と支援のまち」の言い回しですが、おっしゃる通りで、違和感を持ちつつもそのままにしていたというところがあったので改めさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

（事務局（田中））

ありがとうございます。委員のおっしゃる通り、生涯を通じて学習することを考えると「学び・文化芸術」の方が、今よりも適切だと思いますので、検討させていただきます。ありがとうございます。

（浅岡（茂）委員）
人権のまちづくり委員会の会長ですが、43ページ以降「人権教育と啓発活動」「男女共同参画の推進」「多様性を認め合える価値観の醸成」ということで書いていただき、ありがとうございます。
子どもの人権の関係もあるのですが、「人権教育と啓発活動」のところに具体性がなくて、ここに同和問題、性的マイノリティ（性的少数者）の問題、子どもの人権であるとか、人権教育を受けられる環境確保のところに具体的なことを記載していただけると大変ありがたいです。

（大島会長）
ありがとうございます。これは検討していくということでよろしいですか。

（事務局（田中））
ありがとうございます。検討させていただきます。

（久保田委員）
スポーツ協会の久保田です。52ページに「スポーツによるアイデンティティが醸成されているまち」と記載がありますが、スポーツをやることによって親睦や交流を深めるなどのイメージがあり、「アイデンティティ」という言葉には「創造性」「個性」という意味がありますけれども、スポーツ協会を利用している方にとって「アイデンティティ」というのはどうなのかなと疑問に思うところがあります。特に説明のところで「自治会へのアイデンティティ醸成に寄与する」とありますが、自治会にもいろいろな感情、イメージがあります。（スポーツによる）交流・親睦を、自治会の「アイデンティティ」という言葉で表現することになんとなく違和感を持ちました。
また横文字に関連して40ページ「子どもの成長を育む支援体制の充実」の中に「インクルーシブ」という言葉があったり、43ページ「子どもの思いを受け止める大人づくりの推進」の中にある「ウェルビーイング」という言葉があったりなど、若い人なら分かるのかもしれませんが、横文字には例えば注釈をつけていただくと、言葉としてどんな意味があるのか分かり、非常に丁寧だと思います。ご検討で結構です。回答はよいです。

（大島会長）
ありがとうございます。確かに注釈など書かれると良いと思いました。

（事務局（田中））
すみません。素案は未熟な部分がありますので、横文字について注釈は必ずつけたいと思います。そういったところも含め、体裁は整えたいと思います。

（関（悦）委員）

今のスポーツの話に関連するのですが、最近の小布施町の特徴として、スノーボード、ボルダリング、スラックラインがありますね。そういった小布施町の特徴となっているものを、ここに記載してはどうかと思います。

（幹事（藤沢））
ありがとうございます。今後検討していきたいと思います。

（大島会長）
他にありますか。

（塚田委員）
45 ページですが、介護サービス、老人ホーム、デイサービスの利用者が年々増えているように思っていまして、現状の中で、小布施町の収容可能人員と希望者の人数にかなり差があるのではないかと感じています。介護サービスに関係するものについて、具体的な考え方、取組について質問します。民生委員の方にもそういった相談がかなりいっていると思います。以上です。

（幹事（原））
ご質問ありがとうございます。健康福祉課長の原と申します。塚田さんのご懸念点はごもっともだと思います。ただ、介護保険の事業計画は別に作っておりますので、あえてここに載せる必要はないと思いました。
介護保険の事業計画で３年ごとに見直しということで、今年から３年間事業量を見込んで作っているところです。なお、サービスが足りないことが予測された場合には、補助、助成等民間にかける場合もあります。
なおサービスにつきましては、町内で全てまかなう想定をしておりませんので、町外の施設の方をお使いになっている方もいらっしゃいます。必ずしも町内で全てまかなうものではないことをご理解いただければと思います。以上です。

（須山委員）
商工会の須山です。37 ページ「土地利用の方向性」に記載のある具体的な方針について、「小布施町農業振興地域整備計画」とありますが、非常に難しい問題だと思いますけれども、「小布施町農業工業振興地域整備計画」と、工業を追加していただくことが、商工会としての悲願ですのでご検討のほどよろしくお願いいたします。

（大島会長）
ありがとうございます。25 年からということで 10 年間計画なのですね。

（幹事（宮﨑））

産業振興課長の宮﨑です。ここにあります「農業振興地域整備計画」は今現在もある計画でございまして、農地の利用を定めた計画となっておりまして、法律で定まったものになっております。そういった関係もあり今年見直しを行っておりますが、農地に着目した計画ということでこちらに関しては進めさせていただきたいと思います。

今ご指摘ありました関係につきましては、内容も含めて、またご相談させていただければと思いますのでよろしくお願いします。

（大島会長）

よろしいですか。他にいかがですか。

（大窪委員）

質問ですが、地域クラブについては教育委員会がご担当されていると思いますが、こちらに載っていないのでしょうか。

（幹事（藤沢））

ありがとうございます。51 ページの「町全体を教室とした社会教育の展開」の下段の方に、今年度から部活が地域クラブに移行したということで、「中学生が生涯にわたりスポーツ・文化芸術等の活動に親しむことができる環境を整備します」ということで、触れさせていただいております。

（大窪委員）

ありがとうございます。たまたま娘が今部長で、今年から地域クラブに移行して保護者が非常に大変なので、もう少し具体的に加えていただければと思った次第です。

（大島会長）

ありがとうございます。検討するということでよろしいですか。

（幹事（藤沢））

地域クラブの充実については、具体的に明記させていただければと思います。

また、それぞれクラブごとにご相談を承っておりますので、何かご意見があればぜひ教育委員会にお声掛けをいただければと思います。ありがとうございます。

（土屋委員）

37 ページ「土地利用の方向性」とありますが、一番下のところに「総合計画で目指していく、各地域の土地利用の方向性」という欄で「中心市街地…国道 403 号線」と書いてはありますが、他には何も書いてありません。403 号線については具体的に話が進められているのではないかと思います。歩道を直すなどという話が聞こえてきますが、方向性を書いてもいいのではないかと思います。そのあたりを検討いただけますか。

あともう一点、「高齢者の暮らしを支えるまち」ということで、高齢者の一人暮らしや孤独死とか、私も民生委員の見守り活動をしておりますが、新聞によれば民生委員は人が不足していて、小布施町では問題はありませんが、欠員が出ている地域もあるらしいです。孤独死とかそういう見守り体制が今後も心配されるということで、どうするかと言うと、隣近所で情報共有して見守っていく体制が必要になることを言っていました。この文面の中に孤独死を防ぐためにも隣近所で情報を共有していくこと、民生委員だけでなく各地域の隣近所で共有をしていくといった文面を入れてもらえればと思います。以上です。検討いただければと思いますので、回答はいりません。

（大島会長）
ありがとうございます。37 ページの土地利用の方向性、国道 403 号のことについては、先ほど説明があったとおりですのでよろしくお願いします。
高齢者のお話についてはご検討をお願いします。他にございますか。

（高野委員）
今回「ありたい姿」がさっぱりしているなと思いました。例えば 38 ページ「出産・子育て・教育」のところで、小布施町としてどんな子どもたちに育てていきたいのか、第６次総合計画にあったような文言は書いてもいいのではないかと思っています。福祉分野についても同様にさっぱりしているように感じましたが、第６次総合計画では「公助共助自助という形で共助目指していこう」ということが書いてあったと思いますが、今回も（ありたい姿の）５番目には書いてありますが、もっと具体的に書いてもいいのではないかと思いましたので、ご検討をお願いします。

（大島会長）
ありがとうございます。検討していくということで。

（幹事（田中））
前回に比べると淡泊な言葉になっていますので、改めて検討します。

（大島会長）
他にございますか。なければ次に進ませていただきます。分野別計画４～６まで、事務局から説明をお願いします。

（事務局（市川））
それでは、素案の 55 ページからご説明させていただきます。

―説明―

（大島会長）

71 ページまで説明いただきました。皆様からご意見、ご要望、ご質問ありますか。

（堀委員）
56 ページの６行目に「農業生産の基盤である農地に接続する道水路の老朽化が目立ち、維持管理が大変」という旨記載がありますが、施策のほうでは重点施策の「生産基盤の整備」にかかるのかなと思いました。ここで、多面的機能支払交付金とありますが、どういうことをやるのか具体的な記載が少ない気がしました。どこにかかるのかクリアにしたほうがいいと思いました。また、すべて書けばいいということではないと思いますが、農村地域では鳥獣害が問題になっていると思いますので、それについて触れられることができれば一言でも触れていただければありがたいかなと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。これについて事務局からお願いします。

（幹事（宮﨑））
産業振興課長の宮﨑です。ありがとうございます。今委員がおっしゃった通り、最初に書かれておりました生産基盤、道水路に関することは、主にイメージしておりますのが土地改良区にかかる田畑の施設でありまして、おっしゃられました通り具体的に記述が足りていないことは確かだと思いますので、工夫をさせていただきたいと思います。
鳥獣害に関しましても、これが昨今増えているというのはその通りだと思いますので、どんな形でお伝えできるか検討してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

（大島会長）
他にありますか。

（浅岡（茂）委員）
59 ページ「移住希望者に選ばれ、地域の活力が持続するまち」について、「移住・定住のきっかけづくりや、移住・定住に関する事項を気軽に深く相談しやすい環境を整備」とありますが、現行の第六次総合計画の 72 ページには、初動として色々な交流から「関係人口」を増やして、そこから移住してもらうことが書いてあります。これを参考にして、第七次総合計画でも移住定住のためのきっかけづくりについて書いてもらえば、より具体的になるのではないかと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。検討をお願いします。

（事務局（田中））
検討させていただきます。

（浅岡（茂）委員）
防災の関係で、住民の方の意見の中で、現在小布施町防災士の試験に合格しても活躍の場がないという意見がありました。７人」防災士がいるので、そういった方を集めて、小布施町の防災についてどのような検討をすればいいか意見をもらえば、対策になるのではないかと思います。
防災に関連して、今年の６月に区長会（自治会連合会）で福井県の大野市というところに視察に行きました。視察先は大野市の地域の防災拠点で、道の駅を防災拠点として活用しているところがありました。大変いいなというのがあって、小布施町の場合は拠点が分散していますが、ハイウェイオアシスを防災拠点として将来的には整備していくといいのではないかと思います。以上です。

（大島会長）
ありがとうございます。これについて事務局から何かありますか。

（幹事（須山））
総務課長の須山です。ありがとうございます。先ほど浅岡委員のほうから防災士資格の取得についてご意見をいただきましたが、確かにおっしゃる通りということでこちらも承知しておりますので、防災訓練等の機会でそういった防災士の方にご説明をしていただいて、知識を住民の皆様に還元していただけるような機会を検討させていただきたいと思います。

（幹事（芋川））
建設水道課長の芋川です。小布施総合公園、ハイウェイオアシスの関係ですが、あの場所は台風 19 号災害で被災した場所でございます。高速道路がありまして、長野県からも広域防災拠点として指定されてはおりますが、町の防災関係の基地としては、被災地でもあり踏み切れないところがあると私は思っていますが、今後考えていきたいと思います。

（大島会長）
ありがとうございます。他にはありますか。

（大窪委員）
68 ページにあるふるさと納税の寄付額について、別の会に属していて、今年はこれ（達成目標の現況値）を割るのではないかという話をしていましたが、目標値がちょっと高すぎるのと、重点の「歳入改革の推進」ということで、ここにふるさと納税を記載するのはいかがなものかという気がするし、ふるさと納税に頼っている行政はどうなのかと個人的に感じて不安を覚えたのですが、こちらはどのようにお考えかをお聞きしたいです。

（事務局（岡田））

企画交流係の岡田です。ふるさと納税を担当しておりますので、端的に説明をさせていただきますと、もちろん寄付額を集めることというのが一番の目的ではなくて、この寄付をきっかけに小布施のファンを増やすというのが、ふるさと納税の制度が始まったとき以来変わっていない目標であり、目的であります。今回この目標値を 10 億円にさせていただいておりますのは、全て今現在個人の方の寄付からのふるさと納税額を 10 億円に持っていくというのは我々の方でも試算をしているのですけれども、なかなか苦しい部分もありまして、個人個人からの寄付だけでなくて、企業版のふるさと納税など、ふるさと納税の中でもいくつか制度がございます。そういった各種の寄付を含めて、最終的には５年後の令和 11 年には寄付総額を 10 億円に持っていきたいというところは、今考えているところでございます。表に出している部分で、確かに「お金を集めます」というように見えてしまうかもしれませんが、それもあくまでも寄付を通じて小布施を応援してくださる方、ファンになってくださる方を増やすという意味合いで、ここに表記をさせていただいたところです。以上です。

（大窪委員）

その辺をもう少し詳しく書いていただくことは可能ですか。行政の経営として、僕も経営者の１人として、補助金だけで経営しているイメージを覚えるので、できればトップじゃなく違うところに書いていただいたほうが、イメージがいいかなと思います。

（事務局（佐藤））

財政係の佐藤です。ありがとうございます。おっしゃるとおり、ふるさと納税に頼っていること自体を懸念点、課題として認識している一方で、税収等の説明をさせていただく中でも、具体的な町がとれる増収策の大きなものとしてふるさと納税があるのも事実でございまして、毎年ふるさと納税の３～４億円を歳入予算に組み込んだ形で予算編成をしているのも現実であり、そういったことからも、ふるさと納税の収入が大事であることは事実であると考えています。

一方で、２番目に「安定的な財政基盤の確立」と書かせていただいていますが、自主財源の確保という中でも、税収やふるさと納税だけでなく、手数料や使用料など、町内で賄う、外に頼らない財源もしっかり確保していきたいことも書かせていただいております。ご指摘のとおり少しわかりづらいと思いますので、工夫させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

（大島会長）

皆様からのご質問とかご意見を途中で打ち切ろうという気はないので、ここはとことんやっていきたいのですが、終わるまで続けていいものやらここで終わりにして日を改めたほうがいいものやらどうしましょう。このまま続けて終わりまで持っていきますか。質問やご意見、途中では打ち切らないので、最後まですっきりして帰っていただきたいと思います。他に質問はありますか。

（荒木委員）
新生病院の荒木です。59 ページ「移住希望者に選ばれ、地域の活力が持続するまち」ですが、非常に人口問題にとって大事だと思います。私自身が移住者です。移住はしてきましたが、長野市に住んでいます。ご批判を覚悟でお話しするのですが、４年間くらい小布施への移住を考えましたが、住宅がないのです。建てるという選択肢しか、今の小布施町にはないと思っています。
いろいろな事情があり私はこちらへ家を建てることが難しかったので、賃貸を探し続けましたが、家族４人で現代的な生活ができる住宅というのは見つからなくて、今も探し続けてはいますが、現状長野市に住んでいるということがあって、何が言いたいかというと、いくら窓口を強化したり、交流の場を増やしたりしても、まずお試しで住んでみるという受け皿がないと、なかなか移住は現実的でないと身をもって感じますので、行政の対応策としてなかなか切り込みにくいところだと思いますが、なんらかの表現、物理的な、物質的な住環境を充実させなければ、飛躍的な流入というのは望めないかなと思いますので、経験者の意見として述べさせていただきました。

（事務局（岡田））
ありがとうございます。荒木委員のおっしゃる通り、ちょうどこの冬から空き家の全数調査が始まったところですけれども、係でご相談を受ける中で「中古の物件ありませんか」というお話をいただいても、なかなかないというのが実情でございます。
今後課題になってくるであろう、いわゆる空き家と言われる物件ですとか、休眠しているお家をどのように動かすかというところがこれからの課題になるという意味で、組織を横断して検討を重ねるという部分に掲載させていただいたところでありまして、なかなか新たに建てられる土地も少なくなってきている中で、そこの記述について確認、検討していきたいと思います。

（荒木委員）
移住を希望するお医者さんもたくさんいるのですが、我々も小布施ではご案内できなくて、大体須坂市とか、長野市に住んでいる医師がほとんどです。なので、ぜひお願いします。

（事務局（田中））
私はここで中座させていただきまして、議案説明のほうへ向かわなければいけないので、申し訳ございません。

（大島会長）
田中副町長はここで退席ということですけれども、引き続き進めさせていただきたいと思います。

―都合により田中企画財政課長、須山総務課長、鈴木議会事務局長、佐藤財政係長退席―

（浅岡（茂）委員）
「環境・防災・インフラ」のところで、現状課題が書いてありますが、地震のことに全く触れていないです。今年中止になった防災訓練も、大地震を想定して計画されていましたが、ここに地震のことが全く書いてないので、何かしら記載していただけるとありがたいです。

（大島会長）
こちらも検討をお願いします。他にございますか。

（事務局（岡田））
総務課長も退席しておりますので、内容については担当課と協議しまして検討してまいります。

（大島会長）
よろしくお願いします。他にございますか。

（三浦委員）
行政経営について「持続可能な行政運営と多様な協働が支えるまち」ということで、だいぶ前に表現のところを少しお話させていただきましたが、一つは基本理念に「誰もがまちづくりに積極的に参加するまち」と挙げられていて、また小布施町のこれまでの総合計画を見ると、早い段階から「協働」が重点的なものとして打ち出されてきたことを踏まえて考えたときに、「持続可能な行政運営」と「協働」を一つにまとめて書くということが、これでいいのですか？と問題提起したいと思います。
どうしても「持続可能な行政運営」だと、負担軽減を図り行政効率を高めていくといった話ですが、「協働する」とまとめると「効率化するために協働する」みたいな形になると思います。中身としても違う話だと思うので、私は「持続可能な行政運営」が一つあって、DX も含めて書いて、もう一つのものとして「多様な協働が支えるまち」ということで記載いただく。
あとは、これから人口減少が本格的に小布施町でも始まってくるし、自治会でのコミュニティの話も特に触れられていないので、そういったところも少し施策として明記しながら、互助とか、主体間協働、地域貢献といったところで「多様な協働が支えるまち」として別立てさせた方がいいかなと思いました。ご検討いただければと思います。

（大島会長）
他にございますか。

（浅岡（茂）委員）
町民の方の意見の中で役場の衛生環境の関連のところですが、「役場庁舎もが古いが、そのままなのか？XX 年までに庁舎を新調、そのための財源はこれで、その確保に向けてこの施策を

するというものが重点プロジェクトになるのでは。」といったご意見がありました。
　確かに中野市や千曲市は新しい庁舎で非常に明るくて安らぐ感じがします。予算がかかることで大変だと思いますが、職場環境の改善ということで明るく照明器具を入れ替えるとか床を張り替えるとか、その辺はできると思うので、職場環境の改善の部分でご検討いただければと思います。以上です。

（大島会長）
　また検討いただければと思います。他にありますか。

（中村委員）
　71 ページ「役場組織の活性化」に関してですが、やはりこの総合計画を推進していく上では、役場職員の方の並々ならぬ努力がなければできないことですので、自治体職員の離職があまりに進んでいて、この中に健康のこと、衛生管理と記載がありますが、町民の理解、働き方の理解について、今カスハラ、カスタマーハラスメントがあって条例を作っているところもありますので、考えていただければと思います。細かすぎると言われたら細かすぎるのですが、お願いしたいと思います。以上です。

（大島会長）
　他にありますか。なければ政策横断プロジェクト、計画の推進体制及び進捗管理について、事務局から説明をお願いします。

（事務局（市川））
　それでは、ご説明させていただきます。

―説明―

（大島会長）
　皆様からご意見ありましたらお願いします。

（浅岡（茂）委員）
　町民の方の意見の中でも、第六次総合計画について振り返りが全くない、そのような中で新しく第七次計画を作っていいのかという意見がありました。そういった意味で、今回新しく計画を策定するにあたり、進捗管理について入れていただいたことは非常に進歩で、ありがたいことだと思います。Plan、Do、Check、Action ということで民間でもこの手法を使っていまして、計画の管理ということで使われていると思うのですが、５年過ぎてこれをやっても意味がないので、今の時点で２年に１回など、概ねどれくらいの頻度で見直しをするのか入れておいたほうがよいと思いました。以上です。

（大島会長）

ありがとうございます。他にありますか。

（三浦委員）

これからもっと変わっていくとは思いますが、私の意見を少し述べさせていただきます。できるだけ端的に言いますので少しだけ時間をいただければと思います。

ここに限った話ではないかもしれませんが、全体的な印象としてまず申し上げたいのは、最初の方の人口ビジョン、人口動向の分析などが、ここまで議論してきた施策などにどこまで繋がっているのかがよくわからないところがあり、2025 年から人口減少に転じるとか、地区ごとに減少量が違って、町外周部から減少していくとか、若い世代の流入、通勤通学率 10%以内の県内からの流入が多いとか、こういう分析の結果がどこかで活かされてほしい、それがこういう未来を創っていく、計画の方向性が定まっていくようなプロジェクトのなかで少し関連性を持てるといいと思うのが一つです。

政策横断プロジェクトを見ていくと、重点的にやるということなのか、分野・部署を横断して全庁的に進めるというプロジェクトなのか、今後を見据えてまずは始めていかなければならないプロジェクトなのか、その性格を明確にした方がいいと思います。

今は政策横断プロジェクトになっているので、それを前提に申し上げると、政策横断的になっているのか？というのを率直に感じました。例えば「１　誰もが移動しやすいまちづくり」と言っているけれども、中身は交通の話ですよね。公共交通は土地利用や都市計画の背骨、骨格みたいなものなので、分野横断、政策横断でというなら公共交通の話だけでなくて公共交通が課題になっていてそれと連動させながら土地利用のあり方について検討していかなければならないし、あるいは健康・福祉みたいな話では、健康まちづくりみたいな議論がありますが、公共交通を充実させて、公共交通と徒歩を組み合わせてまちの中で買い物・通院ができるまちにします、歩くことで健康づくりに繋げます、とか、あわせて考えていくことが必要だと思います。

「２　地域資源を生かしたまちづくり」「３　小布施ならではの町並み・緑豊かな景観を大切にしたまちづくり」については、すみ分けがよくわからなくて、「地域資源を生かしたまちづくり」となっているけれども「小布施ならではの町並み・緑豊かな景観」も地域資源だと思うのです。何が違うのだろうと思います。これは基本理念でいうと、居心地よく住み続けたくなるまちを作っていくために地域資源を活かすという話なのか、あるいは人々を惹きつけて観光で来てくれる人を増やす、あるいは交流人口を増やす、移住者を増やす、ということに向けて地域資源を生かした魅力をもっと高めて発信していこうという話なのか、２番と３番の対象のすみ分けが出来ていない気がするので、整理をしていただいたほうがいいと思います。

「４　環境に負荷をかけないまちづくり」でいうと、「環境・防災・インフラ」でしている話を総合的に書き換えている印象になってしまうので、ここで触れるとしたらサステナブル観光とか、環境・防災・インフラ以外のところからもっと混ぜ込んだ形で書いた方が、政策横断プロジェクトということになっていくと思います。

そもそもこのプロジェクトがどういった性格のものなのか整理が必要だと思いますが、ぜひ重点プロジェクトではないにしても、この５年間で何をやっていくのか、全庁的に、住民と協

働しながら５年後に向けてこれを進めていくのだということが明確になればいいと思います。以上です。

（大島会長）
　ありがとうございます。ただいまのご意見、十分に検討いただければと思います。他にありますか。

（関（悦）委員）
　全町を挙げて、住民と協力してこれをやっていくなかで、ぜひ町民の方たちにダイジェスト版の配布してほしいです。

（事務局（市川））
　概要版は全戸配布する予定でおります。

（大島会長）
　他にございますか。今日は大変皆様からご意見を提案していただきました。この素案を今日のご意見で肉付けをして、あるいは修正するところは修正をして、パブリックコメントに出す前に、委員の皆様に一度送っていただいて、今日の結果を反映させた素案を委員の方にご覧いただきまして、パブリックコメント実施、原案にするということでお願いします。それでは、次第（４）その他ということで、事務局から何かありますか。

（４）その他
（事務局（市川））
　２点ですが、委員の皆様への報酬なのですが、確定申告の関係で年内中に一旦お支払いしようかなと考えておりますので、前回・今回の２回分お振込みさせていただきますのでよろしくお願いいたします。もう１点ですが、計画書の最後のページに委員の皆様の名簿を載せさせていただきますが、第五次計画までは皆様のお写真まで載せさせていただいていて、今回ももしかすると載せさせていただくかもしれないので、次回の審議会で記念撮影をする可能性があるので、また事前にお知らせするのですがよろしくお願いします。

（大島会長）
　委員の皆様からその他に何かありますか。

（土屋委員）
　今写真とおっしゃっていましたが、名前だけでいいのではないでしょうか。

（大島会長）
　委員の皆様に決めていただければと思いますが、どうしましょうか。今日決めますか、それ

とも次回決めますか。民主主義の精神で賛成多数のほうの意見としたいと思います。顔写真を入れたほうがよいと思う方挙手をお願いいたします。

―挙手なし―

（大島会長）

ということで、よろしいですかね。名前だけということでよろしくお願いいたします。他に委員の皆様からありましたら。それではないようですので進行を事務局にお返しいたします。

（事務局（岡田））

長時間にわたりまして慎重審議をいただきありがとうございました。資料１でご説明しましたスケジュールの通り、本日いただいたご意見を参考に検討しながら、事務局で先ほど会長からお話しいただきました通り、さらにブラッシュアップをさせていただいてというところで、12 月の中旬にホームページでパブリックコメント、その前に皆様にブラッシュアップした資料をお届けするということで準備させていただきたいと思います。次回まで少し間が空いてしまいますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、長時間にわたりまして慎重審議いただきましてありがとうございました。第３回小布施町総合計画審議会を閉会させていただきます。本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。

３．閉　会

―閉会　午後５時 10 分―